



(18) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平7-128620

V

(43) 公開日 平成7年(1995)5月19日

(51) Int. Cl. ⁶	識別記号	庁内整理番号	P I	技術表示箇所
G 0 2 C	1/00			
	3/00			
	7/10			
	9/00			

審査請求 未請求 請求項の数 3 F D (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平5-295899

(22) 出願日 平成5年(1993)11月2日

(71) 出願人 591167452

株式会社サンリーフ

福井県鯖江市杉本町15の22

(72) 発明者 西岡 隆広

福井県鯖江市杉本町15の22 株式会社サン

リーフ内

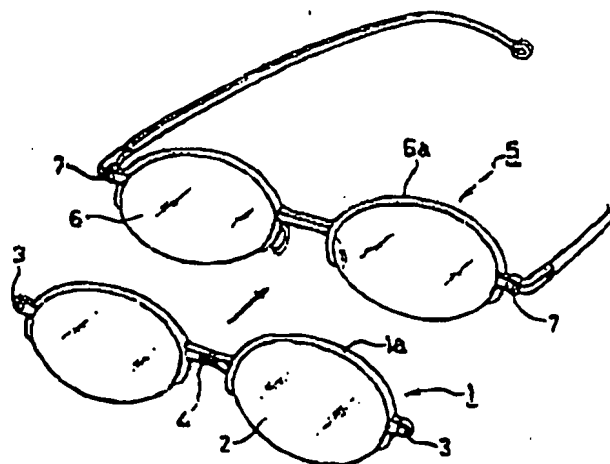
(74) 代理人 弁理士 秋元 理雄

(54) 【発明の名称】 マグネットによる着脱式サングラス

(57) 【要約】

【目的】 安価で取り扱いが容易であり、不使用時に邪魔にならず、取り付け状態が安定し、しかも違和感を感じさせないようにした、マグネットによる着脱式サングラスを提供する。

【構成】 つる無しサングラスを形成し、そのフレームの両端部にマグネットを取り付けると共に、他の眼鏡フレームの両端部にもマグネットを取り付け、前記つる無しサングラスを着脱可能に形成する。つる無しサングラス又は他の眼鏡の何れか一方のフレームにマグネットを取り付け、他のフレームは磁性を有する金属で形成し、つる無しサングラスを着脱可能に形成する。つる無しサングラスは、フレームのブリッジ部分にヒンジを設けて折り畳み可能にする。



(2)

特開平7-128620

【特許請求の範囲】

【請求項1】 つる無しサングラスを形成し、そのフレームの両端部にマグネットを取り付けると共に、他の眼鏡フレームの両端部にもマグネットを取り付け、前記つる無しサングラスを着脱可能に形成したことを特徴とするマグネットによる着脱式サングラス。

【請求項2】 つる無しサングラス又は他の眼鏡の何れか一方のフレームにマグネットを取り付け、他方のフレームは磁性を有する金属で形成し、つる無しサングラスを若脱可能に形成したマグネットによる着脱式サングラス。

【請求項3】 つる無しサングラスは、フレームのブリッジ部分にヒンジを設けて折り畳み可能にした、請求項1又は2記載のマグネットによる着脱式サングラス。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、眼鏡フレームに対して簡単に着脱出来るようにした、マグネットによる着脱式サングラスに関する。

【0002】

【従来の技術】通常、眼鏡とサングラスは別体であって、両方持ち歩く必要がある。その不便を解消するために、従来調光式レンズを用いて自動的に色を付けてサングラスの機能を持たせたものや、跳ね上げ式のサングラスを付けたもの、取はつる無しのサングラスを眼鏡の内側に移し込んで使用するもの等がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、調光式レンズによると眼鏡が高価になる欠点がある。又、跳ね上げ式によるとサングラスの上げ下げが面倒であるばかりかサングラスの不使用时には跳ね上げたままの状態になるため邪魔になる。一方、つる無しサングラスの場合は、両端部を眼鏡の両側のつるに引っ掛けるだけであるから安定感がなく、しかも眼鏡の内側に落とし込むので邪魔しくて違和感がある。本発明は、このような従来の問題点を解消するためになされ、安価で取り扱いが容易であり、不使用时に邪魔にならず、取り付け状態が安定し、しかも違和感を感じさせないようにした、マグネットによる着脱式サングラスを提供することを課題とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】この課題を技術的に解決するための手段として、本発明は、つる無しサングラスを形成し、そのフレームの両端部にマグネットを取り付けると共に、他の眼鏡フレームの両端部にもマグネットを取り付け、前記つる無しサングラスを着脱可能に形成したことを要旨とするものである。更に、つる無しサングラス又は他の眼鏡の何れか一方のフレームにマグネットを取り付け、他方のフレームは磁性を有する金属で形

つる無しサングラスはフレームのブリッジ部分にヒンジを設けて折り畳み可能にしたことを要旨とする。

【0005】

【作用】サングラスが必要な時には、つる無しサングラスを眼鏡フレームの前面に磁着して使用する事が出来る。サングラスの不使用时にはつる無しサングラスを容易に取り外すことが出来る。外したつる無しサングラスは、ブリッジ部で折り畳み可能なので携帯に便利である。

【0006】

【実施例】以下、本発明の実施例を添付図面に基づいて詳説する。図1において、1はつる無しサングラスであり、フレーム1aに色付きレンズ2が嵌着され、フレーム1aの両端部には小さな円形のマグネット3がそれぞれ取り付けられている。又、フレーム1aのブリッジ部にはヒンジ4が取り付けられ、このヒンジ4を介してフレーム1aを折り畳み可能に形成してある。

【0007】5は眼鏡であり、フレーム5aに所定の度付きレンズ6が嵌着され、フレーム5aの両端部には前記つる無しサングラスのマグネット3に磁着する小さな円形のマグネット7がそれぞれ取り付けられている。

【0008】前記つる無しサングラス1は眼鏡5の前面に着脱自在に取り付けることが出来る。即ち、図2に示すようにつる無しサングラス1を眼鏡5の前面に重ね合わせると、つる無しサングラス1のマグネット3が眼鏡5のマグネット7に磁着されるからであり、この状態でサングラス付き眼鏡として使用することが出来る。

【0009】この場合、図3に示すようにつる無しサングラス1が眼鏡5にぴったり重合するように両者のサイズを予め設定しておくとか体裁が良く、しかもつる無しサングラス1のマグネット3と眼鏡5のマグネット7もぴったり合うように予め位置決めしておくとか好ましい。

【0010】前記眼鏡5のフレーム5aが磁性を有する金属製である場合には、つる無しサングラス1のマグネット3がそのフレーム5aに磁着するので眼鏡5のフレーム5a側にマグネットを設ける必要がない。又、つる無しサングラス1のフレーム1aが磁性を有する金属製である場合には、眼鏡5のマグネット7がそのフレーム1aに磁着するのでつる無しサングラス1側のマグネットが不要になる。つまり、何れか一方にマグネットを設ければ良いことになる。更に、両方とも合成樹脂製のフレームであっても、前記実施例のように両方にマグネットを取り付けることにより充分実施することが出来る。

【0011】一方、サングラスが不要の時には、つる無しサングラス1を眼鏡5から外せば良く、この場合マグネット式であるから何ら工具を必要とせず簡単に取り外すことが出来る。外したつる無しサングラス1は、図4に示すように前記ブリッジ部のヒンジ4を介して折り畳みすることが出来る。この時両端のマグネット3同士が磁

(3)

特開平7-128620

る。従って、ポケットやハンドバック等に収納して携帯するのに便利であり、更に専用の収納ケース8に入れて持ち運びするにも適している。

【0012】尚、つる無しサングラス1を外すと眼鏡5側のマグネット7が露出するが、このマグネット7に適宜の色を付着しておけば、ワンポイントマークとしてデザイン的機能を発揮し、又顔等の小さな金属製装飾品を付着させておしゃれ感を演出することも可能である。

【0013】

【発明の効果】以上説明したように、本発明によれば、普通の眼鏡の前面につる無しサングラスをマグネット方式により着脱自在に取り付けられるように構成したので、偏光レンズを用いずに安価に提供することが出来、着脱は簡単に取扱いが容易であり、使用時はつる無しサングラスの取り付け状態が安定し、しかも違和感を感

じさせず、不使用時にはつる無しサングラスを眼鏡から取り外せるので邪魔にならず、且つ折り畳めて携帯に便利である等の優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の実施例を示す要部の斜視図である。

【図2】 眼鏡につる無しサングラスを取り付けた状態を示す要部の平面図である。

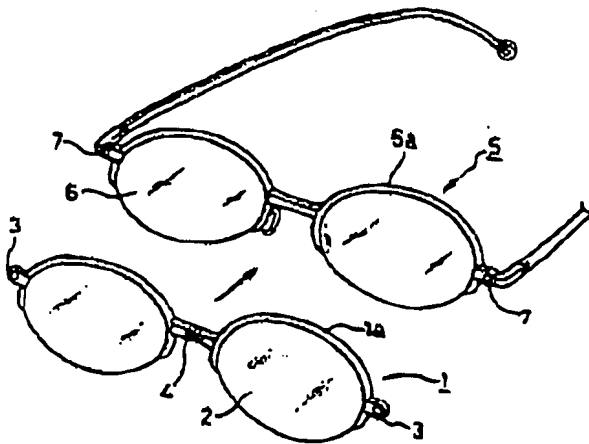
【図3】 同、側面図である。

【図4】 つる無しサングラスを折り畳む状態及び専用の収納ケースを示す斜視図である。

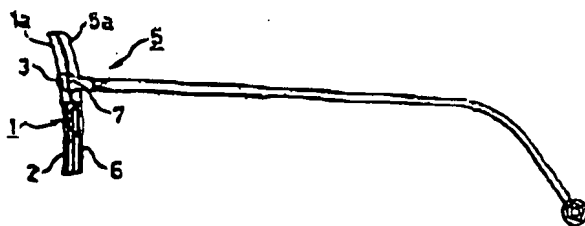
【符号の説明】

1…つる無しサングラス 1a…フレーム 2…色付きレンズ 3…マグネット 4…ヒンジ 5…眼鏡 5a…フレーム 6…度付きレンズ 7…マグネット 8…収納ケース

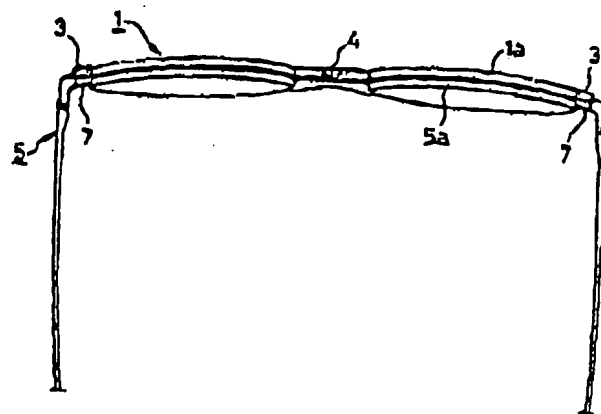
【図1】



【図3】



【図2】



【図4】

